

2018年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	八島 由香
顕彰科目名	基礎講読 I - I 1
<p>●授業運営において工夫している点</p> <p>この授業では、日本の古典文学作品を研究しようとする際、基本となる図書と、その調べ方を解説しています。また、古典文学作品に慣れ親しむきっかけとして、著名な作品の冒頭部を暗誦してもらっています。</p> <p>調べ方の解説をする際、教室で行っているため、プリントや説明で、調べ方のイメージがわくように心がけています。調べ方を教えた次の時間は、再度調べ方を確認し、その調査結果をまとめる方法や、そこからの考え方を教えています。その後、実際に図書館で調べるという課題を出します。課題は、学生一人で調査をするように五種類ほど設定しており、学内 SNS でもお知らせしています。</p> <p>このように、授業の主な流れは、調べ方の解説、まとめ方の説明、レポート課題の提出です。この流れを、別のテーマで3回ほど繰り返します。それ以外は、古典本文の問題について解説をしたり、変体仮名の解読にチャレンジしてもらったりしています。</p> <p>古典作品の冒頭の暗誦テストは、授業内容を 60 分ほどで終了した後、一人ひとりに行っています。暗誦する冒頭の口語訳は注釈書などを写してくることを毎回の課題としており、暗誦だけでは終わらないように心がけています。暗誦テストをする前に、その作品の面白い部分について話をするなどして、作品自体にも興味を持つことができるよう心がけてもいます。</p> <p>調査する課題に暗誦部分の口語訳と、毎回なにか宿題が出ている講義となっておりますが、多くの学生ががんばってこなしてくれてくれます。調査してわかった結果に興味を持ち、それを楽しんでくれる学生、自らの結論に達し、それに対する思考を深めている学生などがおりました。また、暗誦テストの方も、リズムをとりながら楽しそうに受けてくれる学生、中学生の頃の暗誦テストを懐かしがりながら受けてくれる学生がおりました。そのような学生達に接するたびに、実は「学生だのみ」の授業なのだと思感し、がんばってくれる学生達に感謝をしております。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えていることなど</p> <p>時には教室ではなく図書館に場所を移し、実際に辞書類を手にして解説をしてもいいかもしれません。また、現状では、調査したレポートをチェックした後、学生本人に返却して終わってしまっていますが、授業内で課題ごとにグループを作って、他の学生のレポートを見る機会を作ることで、自らのレポートを見直すきっかけを作りたいと考えております。</p> <p>他にも、学生が自主的に学ぼうと思える工夫ができないか、受講生に意見を求めながら、自らも常に考えていきたいと思っております。</p>	